

春の里山で学びの第一歩 ほうた自然学校が開校

子どもたちが自然の中で学び、成長できる場として「ほうた自然学校」が開校しました。

芳田自治協議会が運営主体となり造られたこの学校は、里山そのものを教室に、地域の人々を先生に見立て、さまざまな体験を通じて子どもたちの好奇心や生きる力を引き出すことを目指しています。

開校式後には、たけのこ堀りとカブトムシの幼虫探しを実施。子どもたちは初めての体験に苦戦しながらも夢中になって土を掘り、見つけたタケノコや幼虫に大喜び。地域住民から掘り方や生き物のことを教わりながら、自然への興味を深める姿が見られました。今後も季節を五感で楽しむプログラムを通して、子どもたちの未来を育てていきます。〔4月11日、18日／明楽寺町芳田カブトムシの里〕



市産いちごをPR

西林寺の桜まつりに合わせ、TUMAこいカフェで地元産イチゴを使った「いちごフェア」が開催されました。花見客や地域住民が訪れ、春らしいスイーツを楽しみながら交流が生まれる温かな場となりました。〔4月3～5日〕



子ども輝く体験の場

子どもたちが自分の考えを生かし、好きな商品を並べる「にじいろマルシェ」と、子ども用品を譲り合う「ゆずりっこ」が開催。多くの親子連れが会場に訪れ、買い物と交流を楽しみました。〔3月28日／天神池スポーツセンター〕



消防大会で決意新たに

市と市消防団が開いた消防大会で、新入団員への辞令交付や退団者への感謝状贈呈などが行われました。辞令を受け取った新入団員の代表は、地域の安全を守る決意を述べました。〔4月5日／市民交流施設〕



次の20年へ—西脇の未来 を考えるフォーラム

市制20周年記念事業のグランドフィナーレとして、「消滅可能性自治体×SDGs未来都市を何とかしようとしている人たちの話」をテーマにまちづくりフォーラムを開催しました。本市出身で中国放送アナウンサーの淵上沙紀さんによる司会のもと、来場した350人が地域エコノミストの藻谷浩介さんによる基調講演や、市内でまちづくり活動に取り組む4組の事例発表に耳を傾けました。また、片山象三市長は次の20年に向けて「持続可能なまちづくりの答えを、皆さんと一緒に探していきたい」と呼び掛けました。

屋外では「わいわいまちなかおぞらマルシェ」と「まちづくりこどもラボ」を同時開催。飲食や体験のブースが並び、多世代が触れ合いました。〔3月20日／市役所・市民交流施設オリナス〕



ひょうごの万博レガシーが西脇へ

大阪・関西万博の開催期間中に兵庫県立美術館で展示された「播州織のトンネルアート」の一部をみらいえに移設。展示物はひょうごフィールドパビリオンのアンバサダーである玉木新雄さん監修で制作され、万博レガシーの継承と播州織の魅力発信を目的とし、見るだけでなく、触れることもできます。9月30日まで。〔みらいえ〕



新ごみ処理施設で火入れ式挙行

西脇多可行政事務組合の新ごみ処理施設（多可町）で、焼却炉の火入れ式が執り行われ、片山象三市長や多可町の吉田一四町長ら関係者が安全祈願を行いました。片山市長は「西脇市と多可町住民の快適な暮らしを支える重要施設。多くの皆さまのご協力に心より感謝申し上げます」と話しました。〔3月23日〕